

愛着スタイルおよび他者との体験・信頼感と大学適応との関連—性差にも着目して—
The Relationship Between Attachment Styles, Interpersonal Experiences, Interpersonal Trust, and University Adjustment: A Focus on Gender Differences

224J2014 松堂あいり
Airi Matsudo

指導 山口 一 教授
Thesis Supervisor: Hajime Yamaguchi

国際学術研究科国際学術専攻心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野
Master of Arts Program in Clinical Psychology Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies J. F. Oberlin University

【問題】

高等教育機関において中途退学は重要な課題であり、文部科学省（2024）の調査でも学生生活への不適応が背景として示唆されている。学校適応には対人関係が重要であり、その質には愛着スタイルが影響することが指摘されている。一方で、愛着は他者との相互作用を通じて変容しうるため、他者との体験や信頼感も大学適応に関与すると考えられる。そこで本研究では、愛着スタイルが大学適応に与える影響を、他者への信頼感および対人関係における肯定的な体験を媒介とした心理的プロセスとして捉え、その影響過程を男女ごとに検討した。

【方法】

大学生を対象に質問紙調査を実施した。測定尺度には、一般他者版愛着スタイル尺度（中尾・加藤, 2004）、信頼感尺度（三輪・三浦・上里, 1999）、達成・対人領域別ライフイベント尺度（高比良, 1998）、大学環境への適応感尺度（大久保・青柳, 2003）を用いた。分析では性差の検討のために t 検定を行い、変数間の関連を検討するために相関分析を実施した。さらに、愛着スタイルが他人への信頼と対人関係の肯定的なライフイベント（PLE-対人）を媒介して大学適応に影響を及ぼすモデルを想定し、共分散構造分析を男女別に行った。

【結果と考察】

t 検定の結果、愛着スタイル、他人への信頼、PLE-対人、大学環境への適応感のすべての変数において平均値の有意な性差は認められなかった。一方、相関分析では、愛着スタイルの下位尺度である親密性の回避は男女共に、大学環境への適応感と有意な負の相関を示した。また、女性においてのみ見捨てられ不安も大学環境への適応感と有意な負の相関を示した。他人への信頼および PLE-対人は大学環境への適応感と有意な正の相関を示した。これらの結果から、大学環境への適応には、愛着スタイルに加え、日常的な対人関係における主観的に肯定的な体験や他者への信頼感が重要な役割を果たしていることが示唆された。

さらに共分散構造分析の結果、男女ともに、親密性の回避が他人への信頼および PLE-対人を介して大学環境への適応感に影響を及ぼす媒介モデルが支持された。このことは、愛着スタイルが大学環境への適応に直接的に影響するだけでなく、日常的な対人関係における経験の意味づけや対人認知を通じて、間接的に適応感を形成していく可能性を示している点で意義深い。すなわち、回避傾向の強さが直接的に不適応をもたらすだけでなく、その後に経験される対人関係の質や信頼感が、大学適応を左右する要因となることが示唆された。

一方で、女性は見捨てられ不安と対人要因との関連がより顕著に示されるなど、変数間の関連には性差が示唆された。平均値の比較では性差が認められなかったことを踏まえると、大学生の適応を理解する上では、表面的な適応水準の違いだけでなく、心理的要因がどのような過程を通じて機能しているのかという質的側面に着目する必要性が示されたと考えられる。これらの知見を踏まえると、回避傾向の強い学生に対しては、単に対人接触の量を増やすのではなく、肯定的と感じられる対人関係を体験できる機会を提供することが重要であると考えられる。また、見捨てられ不安が強い学生に対しては、関係の継続性や安定性が確保される対人環境を整えることが、大学環境への適応感を高める支援に繋がる可能性がある。したがって、本研究の結果は、学生相談や初年次教育において、学生の対人関係の特徴に応じた支援方略を作成する上で、有用な示唆を提供するものと考えられる。

参考文献

- 三輪雅子・三浦正江・上里一郎(1999). 大学生のシャイネスと信頼感, および精神的健康の関連性の検討 ヒューマンサイエンスリサーチ, 8, 121-137.
- 文部科学省(2024). 令和 5 年度 学生の中途退学者・休学者数等に関する調査結果 文部科学省
Retrieved July 14, 2025 from
https://www.mext.go.jp/content/20240627mxt_gakushi01-000013028_1.pdf
- 中尾達馬・加藤和生(2004). 一般他者を想定した愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討九州大学心理学研究, 5, 19-27.
- 大久保智生・青柳肇(2003). 大学生用適応感尺度の作成の試み——個人-環境の適合性の視点から—— パーソナリティ研究, 12(1), 38-39.
- 高比良美詠子(1998). 対人・達成領域別ライフイベント尺度 (大学生用) の作成と妥当性の検討 社会心理学研究, 14(1), 12-24.